

子どもの本

研究会



【私の一冊】

『木かげの家の小人たち』

いぬい とみこ著（福音館書店）



乾達

舞台は東京郊外のケヤキに囲まれた森山家。天窓のそばの本棚の上に間借りする小人の一家の暮らしを描いた物語です。森山家の家族は毎日、空色に輝くガラスコップに一杯の牛乳を注ぎ、窓の敷居に運んで、小人たちの暮らしを支えます。時は大正から昭和にかけて。その貴い日課は10歳の少年から、その妹、いとこ、さらには夫婦になった少年といこの3人の子どもへと順々に受け継がれ、30年一日も欠かさず続いていました――。

私自身の最初の読書体験を紹介しようと、今回、半世紀ぶりに『北極のムーシカミーシカ』『ながいながいペンギンの話』とともに、本書を読み返しました。幼い日、母親が「同じ苗字の人が書いたのよ」と、初めて読んでくれた本がこれら、いぬいさんの作品でした。共通するのは、子グマ、ペンギンのヒナ、そして小人とその世話をする子ども……という「小さい者」の目線で語られていること。彼らの冒険や発見を通じ未知の世界が開けていく感覚が心地よかったのを思い出しました。ただ他の2冊に比べ、本書は物語の背景が圧倒的に複雑だったことに驚かされました。

物語に戻ります。やがて日本は戦時に入り、少年だった森山家の主人は思想犯とされて拘束。軍国少年に育った息子の一人は牛乳運びを続ける妹を「非常時にそんなことしてちゃいけないんだ」となじります。物資も乏しくなり、小人たちは疎開する妹とともに長野に移ります――。

このように、戦時のリアルな社会情勢や人心に翻弄される家人や小人たちの暮らしが描かれ、子どもには相当歯ごたえのある展開が最後まで続きます。私は、母にいろいろ質問しながら本を読み進めてもらうのを楽しみにしていましたが、この時代の説明はきつと骨が折れたことでしょう。

本書が出版されたのは戦後10年余りの1959年。作品を読み返し、あのころは軍人や戦火の犠牲者、その遺族だけでなく、あらゆる国民が戦争の傷を負って生きていた時代だったんだと改めて認識させられました。みなさんも本書を手に取り、戦後80年を経た現在の戦争文学ではあまり描かれない、小さい者から見た戦争を追体験してはいかがでしょう。できれば、「非国民って何」「ヤミの牛乳って」と訊いてきそうな子どもたちとともに。

（大牟田市立図書館前館長、東京都大田区立馬込図書館長）

2025年 7月 23日（水） 特定非営利活動法人 熊本子どもの本の研究会 発行



◇講座報告 絵本『ロバのシルベスターとまほうの小石』を読んで

日時 5月21日(水) 10時〜11時45分

会場 熊本市立図書館集会所

参加者 12人

担当 木村一恵



○読み聞かせ『ロバのシルベスターとまほうの小石』ウィリアム・スタイグ作、せたていじ訳、評論社(初版1969年アメリカ・1975年日本)

○ストーリーを辿りながら
☆『ぼくはいわになりたい』

願いを叶えることができる魔法の小石を手に入れたロバの子シルベスター。しかし、危険に遭遇し、慌てふためいたとき、『岩になりたい』と願ってしまった。

☆岩の持つ意味 岩は硬くて感情を持たない。シルベスターの心も岩のように冷たく固まってしまうのではないかと不安になる。

☆『シルベスターはねむりました。ねるほかになげできません』―眠ることの意味

絶望に嘆き抗つてもエネルギーを使うだけ。眠ることは生きのびるための方法だったのかもしれない。



☆絶望と孤独 シルベスターの絶望と孤独を、秋から冬へと変わっていく季節の移り変わりや夜の風景が代弁。雪の中、岩となったシルベスターの上に座った狼(狼も孤独である)に、僅かなぬくもりを感じたのではないだろうか。

☆希望 明るい色彩の春の情景に奇跡が訪れるかもしれないという予感を持つ。

☆奇跡 息子を思う気持ちで父親に小石を岩の上に置かせる。岩に腰かけた母親の温かさがシルベスターに感情のない岩ではなく、生き物としての感情を取り戻させた。家族の愛と信頼が、互いを引き寄せ、奇跡をもたらした。

○1970年コルドコット賞受賞スピーチより

「芸術を通して子どもに手渡すものに大きな意味があることを私は十分に意識している」

「児童文学をふくむ芸術は、謎を謎としたまま人生について知ることを助けてくれる」

私たちは、矛盾と不条理に満ちている世の中に立ち向かい、あるいは折り合いをつけながら生きていかなければならないが、それは苦しいだけの時間ではない。耐えながらも静かに真摯に歩む時間は、人生は愛おしいものだと思つてくれるのではないか。児童文学は一人ひとりの人生に、そのまま大丈夫だよ、一緒に乗り越えていこうと寄り添ってくれるものだと言っているのではないか。

○藤本朝巳(英米児童文学研究者、翻訳家)の論文「アメリカの絵本作家 William Steig 研究―生涯とその描写法を探る―」より

・うつ病の経験、離婚が物語に反映されている。

―孤独の先に希望があること、生きることへの向きに捉えることを自分自身に示す。

・元風刺漫画家であり、眼の描き方に感情が表れている。ユーモアもある。

○最後に

奇跡を起こすのは魔法ではなく、大切な人を変える力と互いを信じる気持ち。一人で耐えなければならぬとき、支えてくれる人、愛してくれる人の存在が耐えることができる力となる。このことは、これから困難なこともあるかもしれない人生に踏む出す子どもたちが、心に刻むこととして大切なことではないだろうか。



【参加者の感想】小石を拾って幸運だと思つたら実は不運だった。幸運だと思つて舞い上がったしまつてもだめなんだと子どもは思ふのかもしれない。

(報告 木村一恵)

2



▼絵本の明るい世界にも作者のバックグラウンドを感じた▼小さい子にも良いお話だと思った

▼はじめて出会った絵本だった。最後の場面に自分が今、普通に暮らせる幸せとありがたさを感じる▼小石は何なのかを考えた。人間が欲を思うとき恐怖や落とし穴があり、戒めるための石だったのかなと感じた▼せたていじさんの訳が名訳▼語りで聞いたことがあった。絵本の絵があることでストーリーに引き込まれた▼親子の愛情が丁寧に描かれている。親子で共感できる絵本だと思う▼最初の3人の団らんの姿、そして最後の3人の姿に親子の絆がしっかりと感じられる▼なぜロバ？なぜブタ？と自分なりに考えてみた▼小石をだれも持ち去らないで、と思いつきながら聞いていた▼こんなにワクワクドキドキする絵本に久しぶりに出会った▼この話はミュージカルになると思う。もちろんそれは原作がいいから▼石による幸運が岩による不運に変わったことがユーモアだと思った▼カッコ書きの形で作者が顔を出し、言葉を発している。これは日本の小説や児童書にも使われる。



(報告 古上美智代)

◇講座報告

公開講座事前学習 昔話基礎講座

日時 6月18日(水) 10時~12時

会場 熊本市立図書館集会室

参加者 14人

【講座I】(小澤俊夫氏講義より)

担当 辻 由美

日本では昔話が何代にもわたり祖父母たちによつて、孫や近所の子どもたちに分かりやすいよう簡単明瞭な語り口で語られてきた。昔話は口で語られ耳で聞く「聞く文学」で、子どもたちが想像できるようなシンプルでクリアでなければならぬ。児童文学の昔話「読む文学」ならば心理描写や状況描写が複雑でも戻って読み直すことができるが、本来の昔話は語られている間だけに存在する「時間的文芸」であり、音楽ともよく似ていると小澤氏は述べている。

◎語り口について

【孤立的に語る】話の場面は1対1の構成。「白雪姫」では主人公と7人の小人たちの場面も1対1となる。小人たちの集団行動を1単位として扱うからである。

【極端に語る】原色(赤白黒、極端な対照)王女と農夫、貧乏と金持ち、怠け者と勤勉。

【数の固定性】一、二、三、七、十二。大きな数だと百、千、万など切りのいい数字。

【固体的な大小道具】輪郭がくっきりした硬いイメージの物が用いられる。石の唐櫃(からびつ)、金貨、櫛、指輪など。

【実体(中身)を抜いて語る】「切る」「食う」など動詞だけを使う。

【残酷には語らない】血なまぐさくリアルには語らない。

【同じ場面は同じ言葉で語る】聞く昔話は言葉の繰り返しで記憶に残る。

【平面的Ⅱ図形的Ⅱ切り紙細工のように語る】馬の脚を切っても残りの脚で走ったり、首を切ってもくっついていたりする

【リズムが大事】3回の繰り返しは、1、2回目にして3回目長く、話の展開上でも重要。それぞれ2・2・4拍で構成され、聞き手にとって受け入れやすいリズム。日本のわらべうたにも使用。

【場所、時間、状況の一致】物語の進行が分かりやすく、早くゴールに達することができる。

【昔話のゴール】主人公の幸せ↓身の安全、富の獲得、結婚。

【発端句】「むかしむかし あるところに 爺様、



婆様、若者がいた」のように時代・場所・人物が不特定。これから始まるお話は、架空の物語だから信じないでくださいねという宣言。

【結末句】「どんとはれ」「どっぺんぱりのぶっ」など、物語が終わったから、現実に戻りましょうと言う挨拶の言葉である。

昔話のメッセージ

・子どもの成長を語る「寝太郎」は悪知恵も知恵のうち、たつぷり寝たからこそ知恵が出せた。「シンデレラ」に代表される行ったり来たり物語は思春期の子どもの行動と似ている。

・人間と自然との関係「とつつく ひつつく」では、自然が人間に恵みをもたらす一方で災いをもたらす。「かちかち山」は、人間と動物との領分争いと捉えられる。

【参考文献】小澤俊夫『昔話とは何か』『こんにちは、昔話です』（小澤哲はなし研究所）『昔話の語法』（福音館書店）

講座Ⅱ

担当 堀畑真紀子

昔話では、一人の人物が一つの性格を表す。

正直爺の性格は「正直・親切・勤勉・お人好し」、隣の爺の性格は「欲深・怠惰・意地悪」でいわゆる「慥貪（けんどん）・懈怠（けたい）」である。また、正直爺の幸いが一代限りであるよう



に、本格昔話の根本思想は現世中心主義である。

正直性と慥貪性に着目すると、①「笠地蔵」のように正直爺（婆）のみ。②「舌切り雀」のように、夫婦内での正直爺と慥貪婆の対立。③

「花咲爺」のように正直爺（婆）と隣の慥貪爺（婆）の対立。④「鶴女房」のように正直から慥貪への変化。①から③は正直と慥貪が異なる人物に現れる。但し、③の位置づけには議論の余地がある。④には1人の人物に正直と慥貪が現れる。

佐竹昭広氏は、昔話が「二人の人物が一つの性格を具現する」という。よって、④変心型は後世（近代？）の語りと考えられるだろう。浅見徹氏は、極貧の爺婆に幸運が転がり込んでくるのが「古代の話の型であり、古代人の論理」であり、このような爺婆に、実証的な内容のない飾り言葉の「正直」を付け加えたのは、「江戸時代、明治、そして戦後など、中央集権が強大化し、社会が表面的に安定を保つ」時代という。

【参考文献】佐竹昭広『民話の思想』（中公文庫）・浅見徹『玉手箱と打出の小槌』（和泉書院）

【参加者の感想】宝くじの噂話が伝わっている様子に、昔話はこうやってできるのだと感じた



▼昔話は残酷だと避けられがちだが、基本を知れば誤解であると分かる▼現場で子どもたちに昔話をした経験から、子どもたちは自身で結末をつけて聞いていたと思う▼子どもたちに綺麗な事ばかり見せる現代、人間の本質を示す昔話は大切な役割を担っている▼文字を知らない時期の子どもの「聞く力」に感じ入ると共に、その力を大切にしたい▼小澤先生の「寝太郎」の教えが子育ての助けになった▼悩む子どもや親をどうかしたいという思いが小澤先生の昔話の背景にあるのではないか▼ディズニーの「白雪姫」はグリムを基盤とし、当時の民衆が求めるものを描いている▼結末句の意味が分かった▼強く生きるといふ昔話のメッセージが印象的▼「鶴女房」から分相応な生き方でないといふ人生が壊れてしまふと思った▼「鶴女房」に仏教の影響を見た▼昔話と説話はどのように影響し合っているのか。（報告 堀畑真紀子）

報告 2025年度 通常総会

日時 6月22日（日） 11時～11時40分
場所 熊本市現代美術館会議室
出席者数 47名（うち評決委任者35名）
正会員数 56名 定款26条にある定足数「正会



員の半数以上の出席」を充足し、本総会は成立。
森正人議長のもと、総会資料に従って以下の審議が進められ、全て承認された。

第1号議案 24年度事業報告

第2号議案 24年度活動決算報告(含む監査報告)

第3号議案

25年度事業計画

第4号議案 25年度活動予算

第5号議案 役員改選 横田真理事、小川芳宏

理事、森正人理事、村上輝和理事、世良喜久子

理事、横田恵美理事、興津暁子監事、園田舞監

事が重任、倉岡壽雅子理事、堀畑真紀子理事が

新任。増田素美子理事が退任

報告 2025年度 通常総会後理事会

日時 6月22日(日) 11時40分〜11時45分

場所 熊本市現代美術館会議室

出席者数 6名(理事総数8名)

横田真理事が議長となり以下のとおり審議し、

承認された。議事録署名人名には森正人理事と堀

畑真紀子理事が選任された。

第1号議案 理事長の選任

横田真理事が理事長に選任された。

第2号議案 副理事長の選任

小川芳宏理事が副理事長に選任された。



「寄贈ありがとうございます」



児童文学作家の今村葦子さんが自著『うたものがたり』を、熊本子どもの本の研究会会員の有久賢治さんが自著『阿蘇の銀河鉄道に乗りたいな』を熊本子どもの本の研究会に寄贈してくださいました。物語に込めた願いや作品誕生の経緯を今村さんのご本の新聞連載時の担当者木村彰宏さんと有久さんにそれぞれ綴っていただきました。

今村葦子さんの『うたものがたり』絵本に

木村彰宏(熊本日新聞社・編集専門委員)

兼嘱託論説委員

『ふたつの家のちえ子』などで知られる球磨村出身の児童文学作家、今村葦子さん(東京在住)が執筆した童話『うたものがたり』(B1出版)が今年5月出版された。熊本日新聞の小中学生のページ「くまTOMO」面に2017年7月から21年3月まで月1回、連載されたものだ。

「うたものがたり」は、16年4月の熊本地震をきっかけに生まれた。今村さんは地震直後、

今村さんの作品を研究している堀畑真紀子さん(熊本子どもの本の研究会会員)に連絡を取り、東京の公立図書館のリユース本を被災地に送る活動を始めた。堀畑さんから今村さんを紹介され、取材する中で、今村さんが「本を開けば心の世界に旅立つことができる。本は励まし勇気づけてくれる」と話されたのを覚えている。同時に、ほかに何か子どもたちを励ますことはできないか心を砕かれていた。熊日に童話を書き下ろしてもらおうよう依頼したところ、快く引き受けて頂いた。

連載のタイトル通り、子どもたちの回りで起きるできごとに、童話やわらべうたのフレーズを織り込んだ心温まる物語。さし絵もつけ、子どもたちに届けた。

連載開始から1年後の18年7月、今村さんは熊本子どもの本の研究会の講演会で来熊。創作の原点は小学生時代、放課後、図書室にこもり世界少年少女文学全集を読んだことと振り返った。『トム・ソーヤーの冒険』『秘密の花園』『宝島』：物語の主人公と一緒に世界中を旅して泣き笑いし、憧れ、希望、勇気、友情、忍耐、いろんなことを学んだ」と今村さん。講演では「うたものがたり」についても「歌うと、その時だ

けでもつらいことが忘れられる。子どもから『歌を知らなかったので調べて歌った』などと感想が届く。私の宝物』と述べられた。

連載中の20年7月には、熊本豪雨が発生。今村さんの実家も球磨川の氾濫で全壊し、母校は水没した。今村さんは被災した古里の子どもたちのためにもと物語を生み続けた。

そして今回、熊本だけでなく、全国の子どもたちに読んでもらおうと、神戸の出版社が絵本にした。絵本には「春が来た」「兔のダンス」「ゆりかごのうた」などの歌をモチーフにした12編を収録。絵は絵本作家なかざわくみこさんが担当した。温かみを感じさせる絵だ。絵本の末尾には、物語に出てくる歌の楽譜を掲載。「親子でいっしょに読んで、歌ってほしい」と今村さん。お話と歌の輪が広がっていくことを心から願う。

今村さんが創作を始めて45年になる。『ふたつの家のちえ子』（評論社）をはじめ、『ぶな森のキッキ』（童心社）、『なきむしこぞう』（理論社）、『みんな みんな いない いない ばあ』『みんな みんな おやすみなさい』（ともに、あすなろ書房）など多くの作品がある。そして今、新たな作品の出版を準備しているそうだ。「児童文学は希望の文学。これからも言葉の力と子ども

もたちの想像力を信じて仕事を続けていきます」。その言葉に、子どもたちに向けられたまなざしの温かさを感じる。新たにどんな物語が紡がれるのだろうか。

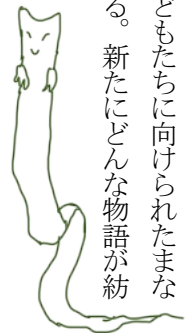
自作『阿蘇の銀河鉄道に乗りたくない』（文芸社）

絵と文 けん・駄馬男

本作は『パン売りロバさんやつてきた』に続く2作目の絵本です。熊本地震からの復興と心の回復への思いを物語に描きました。

お話が山場を迎えた時、震災前と後に響き合うような汽車の音が聞こえます。夢うつつに「だれかおいらを呼んだかい」という声を聞くのです。このフレーズはこの作品の底に流れていたのだと、今思い返しています。

9年前、連れ合いを亡くして落ち込んでいた時、県内の多くが熊本地震に被災し、個人の悲しみどころでない惨状を目の当たりにしました。倒壊した自宅の片付けに追われ、心の整理がつかない時、この声が聞こえてきたのです。若い頃遭遇したキハ系気動車が轟音を立てながら、急坂を上る姿でした。それは、連れ合いや身近な飼い犬や猫との死別を乗り越えろ、という声だったのかも知れません。



なかでも、私が細々と関わって来た南阿蘇の地震からの復興、特に南阿蘇鉄道の全線開通に邁進する人々の姿がありました。私も復興ウオークや、各駅のホームでのお迎えなどに参加する中、元気がみなぎってきたのです。これを主題に、自分の心の回復を辿る絵本制作を思い立ちました。行き戻りしつつ、過去から呼び起された命日の夜、阿蘇の銀河鉄道が走ります。そこでは、以前確かに存在した命との再会を果たし、発車を待ち望んでいた銀河鉄道に乗り込むことができるのです。

このように、多分に個人的な感傷のあるお話ですが、読者の方がどこかに共感していただけの部分があれば幸いです。もしも、この阿蘇の銀河鉄道に乗車できるなら、過去は失われたものと悲嘆ばかりしていることはない。時を超えた心の声がかきつけとなり、命は瞬きとなつて今でもどこか近くで、あるいは星となつて、見守ってくれていると信じています。

裏表紙に希望を乗せて降りてくるトロツコ列車ゆうすげ号を描きました。南阿蘇鉄道を未来に繋ぐ象徴と言えるでしょう。

（会員 有人賢治）

【公開講座 参加者募集】

連続講座「日本の昔ばなしを読む」

講師：森 正人さん（熊本大学名誉教授） 古代・

中世日本文学研究

第1回 9月17日（水）10時～11時半

〈会場〉熊本県民交流会館バレー 会議室9

課題本『つるにようぼう』矢川澄子再話・赤羽

末吉絵（福音館書店）〈定員20人〉

第2回 12月17日（水）10時～11時半

〈会場〉熊本県民交流会館バレー 会議室7

課題本『かさじぞう』瀬田貞二再話・赤羽末吉

絵（福音館書店）〈定員20人〉

参加費：会員・無料（オンライン参加可、アー

カイブ視聴可）▼一般（中学生以上）2回通し

800円 1回のみ500円

「鶴女房」には、貧乏な若者が傷ついた鶴を助

け、鶴が恩返しをする〈動物報恩譚〉、鶴と人間

との結婚〈異類婚姻譚〉、のぞいてはいけないの

に破ってしまう〈タブーとその違反〉が背景に

あります。「笠地蔵」では、大晦日の夜、笠をか

ぶつた地蔵さまが老夫婦の家へ俵を持つてくる

〈大歳の客・異人来訪譚〉が読み取れます。講

座では、これらを読み解き、理解を深めていき

ます。

．．．〇．．．〇．．．〇



昨年度、好評でした森正人さんによる「日本

の昔ばなしを読む」を、今年度も企画しました。

ここで、昨年学んだことを幾つか紹介します。

「はなたれ小僧様」では、爺が薪を投げ入れた

橋が現世と異世界の境界であったこと、はなたれ

小僧が水の霊力を象徴する童子であり、竜宮

が無尽蔵の富がある世界と考えられていたこと

を学びました。また、「ぼんさらや」では継子譚

の特徴である援助者が登場しないこと、娘と殿

様が出会った〈水のほとりと橋の上〉が、異な

る世界に住む者達の出会いの場所であること、

花嫁の条件が理知ある応答と即座の詠歌で、こ

の詠歌が女性の教養・才能として賞賛される伝

統を引き継いでいることを理解しました。この

ように昔ばなしを理解することで、私達は昔ば

なし絵本や本を選定する目を養います。また、

昔ばなしを語り聞かせる活動にも有益となりま

す。（堀畑真紀子）

【参加申し込み方法】①氏名②ふりがな③電話

番号④会員か非会員かを明記▼Email

kokukai@kodomonon.org（件名：日本の昔ばな

しを読む）▼はがき 〒861-8029 熊

本市東区西原1の15の24 熊本子どもの本の

研究会「日本の昔ばなしを読む」係

【オンライン講座 参加者募集】

第6回「グリム童話の魅力」

日時 8月30日（土）19時～21時

講師 竹内識晃（東京家政学院大学非常勤講師・

熊本子どもの本の研究会会員）

グリム兄弟の『子どもと家庭のメルヒェン集』

（通称グリム童話集）は、世界中で親しまれ、

読み継がれてきました。本講座では、グリムの

メルヒェンを比較民話学で丁寧に読み解きます。

今回は「ホレおばさん」（KHM24）を取り上

げます。講座では、昔話の用語も解説しながら、

グリムのメルヒェンへの理解を深めていきます。

また、各国の類話と比較しながら、その魅力を

探ります。グリム兄弟の『ドイツ伝説集』に収

録された「ホレおばさん」もあわせて読み、地

下世界についても考えます。この講座は取り上

げる話が毎回異なりますので、新たに受講され

る場合でも内容の理解に支障はありません。グ

リムのメルヒェンの奥深さをぜひ一緒に楽しめ

ましょう。（竹内識晃）

参加希望の方は、左記アドレスに「グリム童

話の魅力・参加希望」と明記し、8月24日（日）

までに申し込みください。

※申し込みアドレス zoom@kodomonon.org

7月～9月の活動の案内

○講座 ボランティア活動研修

日時 8月20日(水) 10時～11時45分

場所 市民会館シアーズホーム夢ホール第一会議室

会員外の方も500円で参加できます

*講座申込アドレス kouza@kodomonohon.org

○公開講座 「日本の昔話を読む」 第二回

課題本 『つるにようぼう』

日時 9月17日(水) 10時～11時45分

場所 くまもと県民交流館バレア会議室9

*申込については7ページをご参照ください

○研究会活動検討会(オンライン)

日時 8月4日(月) 19時～20時

○グリム童話の魅力(オンライン)

日時 8月30日(土) 19時～21時

*申込アドレス zoom@kodomonohon.org

○おはなしボランティア「びわの木」

7月25日(金) 帯山西小学童クラブ 13時半～14時半(1年生) ▼14時半～15時半(2～5年生)

8月22日(金) 西原小学童クラブ 13時半～14時半(1年生) ▼14時～14時半(2～4年生)

9月5日(金) 11時～11時半

熊本市立図書館(0歳児)

9月13日(土) 14時～14時半 熊本県立図書館

9月19日(金) 10時～11時 江津湖療育医療センター
9月26日(金) 13時～14時半 江津湖療育医療センター
本はともだち!

6月22日の通常総会の時、監事の園田舞さんより、最近「ヨンデミー」(Yondemy)という児童書の紹介アプリを使い始めたところ、1カ月半で30冊の本を図書館で借りて子どもたちに読んでやることができたとの話がありました。読んだ本についての子どもたちの評価と感想を入力すると、それを踏まえてAIのヨンデミー先生が、次に読んだらよい本を紹介してくれるサービスで、選書に悩む親にとっては心強い味方とのこと。子どもに好きな分野の本をたくさん読んでもらいながら、少しずつレベルが高い本、違う分野の本も紹介していくことは、児童教育の現場にいる方々にとっても難しいことです。株式会社Yondemyの笹沼颯太代表取締役の『東大発!1万人の子どもが変わったハマるおうち読書』(デイスカヴァー・トゥエンティワン)には、このサービス提供の背景となる考え方が、わかりやすく記載されています。ホームページ経由で笹沼さんへのオンライン面談を申し込んだところ、7月1日にお話しすることができました。現在は、家庭向けの月額

約3000円のサービスが主体になっていますが、今年の6月から、学校向けサービス(愛知県豊橋市)、小学校の学童クラブ向けサービス(東京都文京区)も実証試験を開始しているとのこと。それらのサービスが提供されるようになると、より多くの子ども達がこのサービスを使えるようになるとともに、読書支援の方々のサポート能力も向上していくことでしょう。笹沼さんの熱い思いを直接聞けたことに加え、私自身も考えていた学童クラブ向けサービスについて、彼らが既に取り組んでいたことに、頼もしさを感じました。このようなサービスの普及を通して、読書を楽しむ子どもが増えてゆくと嬉しいですね。(横田 真)

【ご真福をお祈り申し上げます】……永らくご支援いただいた小川芳宏副理事長が7月10日に永眠されました。これまで本当にありがとうございました。

編集 金子・上林・横田 《イラスト》安田 特定非営利活動法人

熊本市子どもの本の研究会 発行

〒861-8029

熊本市東区西原1丁目15の24

電話 096(382)5090

